栗東国際交流協会 会報

Koryu

Ritto International Friendship Association

2001年12月号
（VOL.8）

栗東国際交流協会
〒520-3088
滋賀県栗東市安養寺1-13-33
TEL 077-551-0293 FAX 077-554-1123
E-MAIL rittoing@mediawars.ne.jp
編集 総務広報委員会

第13回異文化交流サロン（文化事業委員会）

～ 琵琶やお琴の音楽鑑賞 ～

冬の始まりを琵琶と琴の演奏で開催された異文化交流サロン。今回は、中国人プロ演奏者柴礼敏さんを招いての琵琶演奏、そしてＲＩＦＡボランティアの太田正雄さんによる琵琶演奏、お琴では日本人プロ演奏家の麻植美弥子さんを招いての演奏。参加者は30名程度で比較的中年層が多かったのではと感じました。

最初に、ちょっとした琵琶の豆知識、琵琶はもともと西アジアに生まれ、４本弦をもち、糸巻きの部分が彎曲しているのが特徴であることや日本では、楽琵琶、筑前琵琶、薩摩琵琶の種類があることをお話されました。

第一部はＲＩＦＡボランティア太田正雄さんによる琵琶演奏で平家物語の中の一節「都落ち」の弾き語りではじまり、場内は一瞬にして静まり、琵琶の音色が重々しく鳴り響く中にそれぞれに平家物語を想像していたのではないだろうか。

続いて、日本でも数多く演奏活動をされている柴礼敏さんによる琵琶演奏が始まる。やはり、辺りは静まり返り、ただ琵琶の音色だけが響き渡る場内。演奏曲は、月照曲、春江花月夜などで優雅にそして、勇ましく、聴き入る日本、中国、台湾、アメリカの人の心の中に感じるものは哀しくも楽しくも、華やかにも・・・想いはさまざまであったろう。一曲が15分～20分という時間の流れに参加者はひとつひとつの演奏に静いしれて聴いていたように思われた。

又、リクエストで弾き歌がラスト曲として場内を満喫させたことは、あふれんばかりの拍手が其のことを意味したことだろう。

第二部に入る前には、お茶と和菓子で休憩タイム。今まで静まり返った場内も、今度は、話に盛り上がり、交流の輪でにぎわった。

第二部は、麻植美弥子さんのお琴の演奏である。琵琶との音色の違いはあるものの、やはり音楽に魅せられる参加者の姿は満足気、何時の間にか場内は静まり返り、演奏がおわると拍手の渦が巻き起こる。

場面は一転して、プロの演奏後は、お琴の体験である。曲は「さくら」。爪のつけ方を習い、楽譜を見ながら、さ・く・ら・さ・く・らと慣れない指使いで弾くこと30分程。参加者の表情も真剣そのもので。何回か練習すると、もう随分弾いた感じになって手馴れたもの？「さくら」の曲もバッチリかな・・・。

今回の異文化交流サロンでは、アジアの楽器、そして日本古来の楽器の美しさを生演奏で聴き、体験演奏し、楽しい午後のひと時を過ごすことができました。次はどんな異文化交流が待っているのかなと思うと、今日出会えた仲間に感謝して、次の再会を楽しみにしていたいですね。 （K.N.）

栗東市誕生　記念式典へ湖南省衡陽市代表団来市

栗東市が誕生し、市制施行記念式典に市が招待していた友好都市の中国湖南省衡陽市から、陳新文団長（副市長）他６名の団員が10月31日より11月４日までの間、本市に滞在されました。

団員は、10月31日の夕刻に猪飼光三郎会長の迎える中で到着されました。

一行は、11月１日、滋賀県庁に表敬訪問、琵琶湖博物館見学、午後は市内の「ゆうあい館」「歴史民俗博物館」「あぐりの郷」を見学されました。夕刻からは、栗東国際交流協会主催の「歓迎レセプション」で熱烈歓迎を受けていただきました。

11月２日は、京都市内の見学と、夕刻には栗東市主催の歓迎レセプションに出席されました。

11月３日は、栗東市市制記念式典に参加され、衡陽市のメッセージを陳副市長が述べられ、午後は、衡陽市の武術団の演技鑑賞とボーリングを楽しまれました。

11月４日は、彦根城を見学後、栗東市での滞在予定をすべて終了し東京に向かわれました。

滞在中は、猪飼会長をはじめ協会役員や会員が積極的な随行に協力して頂きました。ありがとうございました。

そのことは、11月12日付けで、衡陽市副市長陳新文氏より届けられた礼状の中に、栗東市滞在中において会長や関係者・市民のもてなしと、栗東市のまちづくり等が特に印象に残ったこと、栗東市の方々が両市の友好関係を非常に重視していることを感じられたことが切実に書かれていました。

「栗東国際交流協会主催の歓迎レセプション」

ホテルボストンプラザ草津の会場では、協会会員など60名の大きな拍手とバラの花で陳団長他６名の団員をひとりひとり迎える中で和やかにはじまりました。

猪飼会長は、「友好提携をしてから、はや来年で10年になり、今日までの友好が文化、産業などで多いに深まってまいりました。本市も市制を敷く中で、国際交流になお一層重点をおき、交流を深めて参ります。」陳団長は衡陽市を代表され、「今日までの相互の訪問交流の深まりと、今後の交流活動への期待、特に研修生の交流、文化交流などの深め合いに協力して行きましょう。」とあいさつされました。

出席者全員に副市長よりおみやげが配られました。

國松栄司副会長の乾杯の後、会員の大橋勝さんの仕舞い「鶴亀のキリ」と大島玲子さんの舞踊り「花暦」の披露でレセプションに花を添えていただき、和やかな歓談の一時を送ることができました。

その間、団員の方々は、列席者のテーブルを訪れ、誰となく会話をされ、和やかに過ごせ、予定の時間を忘れるほどでした。（S.M.）

読者コラム

ＲＩＦＡに家族会員として登録してくださっている藤崎さん一家。その家族の代表として、また交流事業委員として惜しみないご協力をくださっている藤崎信さんが寄稿してくださいました。1999年夏に、バーミンハム市からの使節団リーダー、リン・トッシュさんのホストファミリーをお引き受けくださいました。その後のお話を聞いてみましょう。

出会いふたたび

藤崎　信

今年の夏に、姉と従弟と僕の３人でアメリカ、ミシガン州へ行って来ました。ミシガン滞在中の10日間、異なる２組の夫婦の家でお世話になり、ミシガン湖での水泳やピクニック、大リーグ観戦、マッキノーアイランド観光、またピザやその他の料理を一緒に作ったり、犬の散歩、芝生刈り、買い物など、たくさんの貴重な体験を通して交流を深めることができました。実は、僕の父は30年前に第一回の滋賀県ミシガン州友好親善使節団の一員としてアメリカとハワイを訪れました。その時の体験談を聞いて、僕も実際にその国へ行きたいと思い、今から３年前、友好親善使節団に参加してアメリカを訪問しました。この体験や一昨年ホームステイを引き受けたことから、今回僕たちを世話してくださったアール＆スージー夫妻とロン＆リン夫妻と知り合いました。

10日間一緒に過ごして改めて思うことは、うまく英語を話すことができなくても、顔の表情や身振り手振りで自分の気持ちを何とか表現しようとする姿勢によって、心と心は通じ合えるのだなということです。そして、異文化を直接体験することによって、日本とはどのような国なのかを外の目から考えたり、感じたりすることができました。また、相手の国の文化を受け入れて理解することの大切さを身にしみて感じました。

リンさん宅で

文化や言語、外見の違いがあるものの、何かに対して一緒に笑ったり、感動したりする瞬間、心がひとつになったように感じました。こうした出会いを大切にして今まで以上に交流を深めていきたいと思っています。

読者コラムにご投稿ください

ＲＩＦＡ日本人会員・外国人会員どなたでも、またエッセイ、紀行文、詩、短歌や俳句など何でも結構です。採用分には薄謝をさしあげます。

郵便番号・住所・氏名・年齢・職業・TEL／FAXを添えて事務局までお送りください。なお、匿名を希望される方はその旨お書き添え下さい。